SUZUKA CIRCUIT

MEDIA INFORMATION

SUZUKA Sound of ENGINE 2016

2016年5月26日
株式会社モビリティランド
鈴鹿サーキット

SUZUKA Sound of ENGINE 2016　11/19(土)・20(日)

Ferrari 312T、Tyrrell 006… 時代を彩ったF1マシンの参加が続々決定！ あの雄姿が鈴鹿サーキットに蘇る

2012年開場50周年を迎えた鈴鹿サーキットは、これからの50年を見据え、モータースポーツの歴史的価値を絶やすことなく維持し続けるため、11月19日(土)、20日(日)にSUZUKA Sound of ENGINE 2016を開催します。国内外から数多くの往年の名車を招聘し、6つのカテゴリーに分けて展示やデモ走行を実施。その歴史、ドラマに触れていただくことができるものです。その中のFomula1 of LEGENDは、長いF1の歴史の中で独創的、革新的な技術が次々と生み出された1970年代から1980年代に参戦したマシンを中心に5台の参加が決定しました。

【カテゴリー3】Formula1 of LEGEND 参加マシン

■Ferrari 312T (クレイ・レガッツォーニ車) [1975年]

フェラーリ312TのTの由来となった横置きギアボックスを搭載したのを始め、フロントサイドのラジエターを通過した空気が上方に跳ね上げられ、独特なフロントウイングなど独創的な機構を満載したマシン。1975年はニキ・ラウダが5勝、クレイ・レガッツォーニが1勝し、ラウダのドライバーズとともにコンストラクターズチャンピオンも獲得し、ダブルタイトルに輝いた。

■Tyrrell 006 [1972年]

1970年に初のオリジナルマシン、001を開発したティレルは翌1971年ドライバー、コンストラクターのダブルタイトルを獲得。マシンは進化を続け、1972年終盤に登場したのがティレル006。006は翌1973年ジャッキー・スチュワートが5勝を記録し、自身3度目のドライバーズチャンピオンを獲得。ティレルを名門チームに押し上げた1台となった。

■Venturi LC92 (片山右京車) [1992年]

1987年からF1参戦を開始し、1990年には鈴木亜久里が日本人ドライバー初の3位表彰台を記録したラルースチームは1992年、自動車メーカー、ヴェンチュリーの支援を受け、ランボルギーニV12エンジンを搭載したヴェンチュリー・LC92を投入。この年F1にデビューした片山右京がそのステアリングを握った。その後もラルースからは鈴木利男、野田英樹がスポット参戦を果たしている。

■Wolf WR1 [1977年]

1977年F1に参戦したウルフは、開幕戦アルゼンチンGPにウルフWR1を投入するとジョディ・シェクターのドライブでデビューウィンを飾った。ボディ全体が楔形のウェッジシェイプ形状でダウンフォースを稼ぎ出し、かつ軽量・コンパクトに仕上げられていた。この年の最終戦日本GP(富士スピードウェイ)では決勝のファステストラップを記録した。

■Alfaromeo 179C [1982年]

1976年、チームにエンジン供給する形でF1に復帰したアルファロメオは1979年からワークスチームとして参戦。水平対向12気筒からV型12気筒エンジン換えた179を投入。1982年にかけて179C、179D、179Eと3種類のマシンを参戦させ、1981年最終戦ラスベガスGPでマリオ・アンドレッティが3位入賞。アルファロメオにF1復帰後初の表彰台をもたらせた。

株式会社 モビリティランド　鈴鹿サーキット
〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町7992　TEL(059)378-1111　FAX(059)378-4568　URL http://www.suzukacircuit.jp/